令和２年６月１５日発行

横手市が進める公共施設の再配置についてお知らせします。

横手市の公共施設の現状は？

昭和40 年代以降、経済成長や地域振興施策などで、日本中で様々な公共施設が一斉に整備されました。それは横手市の合併前の旧市町村においても例外ではありません。

横手市の公共施設の整備状況
（数字はその期間に整備された公共施設の延べ床面積）

昭和40年以前	昭和41～60年	昭和61～平成17年	平成18年以降
約16,000㎡	約348,000㎡	約286,500㎡	約62,500㎡

ほとんどの公共施設はこの期間に整備されました

（計画策定時データより）

しかし、人口が増え、経済も右肩上がりだった頃とは対照的に、現在は、人口減少・少子高齢化の時代を迎えており、さらに、昭和40年代以降に整備された公共施設が一斉に改修・更新の時期に差し掛かっています。また、人口減少・少子高齢化社会の進展に伴う、市税収の減少による財政状態の悪化も懸念されています。

このような横手市を取り巻く多くの課題に対して、まちづくりの将来計画を形作るために、平成28年に横手市財産経営推進計画（ＦＭ計画）を策定し、公共施設の再配置※を進めています。

※『再配置』とは、今後を見据えた公共施設の需要を元に、施設の配置や役割の抜本的な見直しを行い、自治体が維持できる適正な数量・コスト・品質になるよう、施設を再編することを意味します。

あなたならどうする？

Aさんは、親から譲られた築25年の木造アパートを５棟持ち管理していますが、これまでは、収入にもある程度余裕があったため、今まで通りの低価格の部屋代で抑えていました。

しかし、Aさんも定年退職を迎え、収入も退職金の蓄えと年金のみとなり、今後建物の老朽化が進んでいくと、修繕などの管理費がかさみ生活を圧迫していくことが予想されます。

また、アパートの入居率は約3割のため、入居者の部屋代と自分の収入だけで、建物を今のまま維持していくことは難しいと思われます。

アパートを集約するか？　管理を委託するか？　売却するか？

※同じようなことが、横手市でも起きています。市の方針については、次ページ以降へ。

明るい未来にするために、いま私たちができること

それは・・・

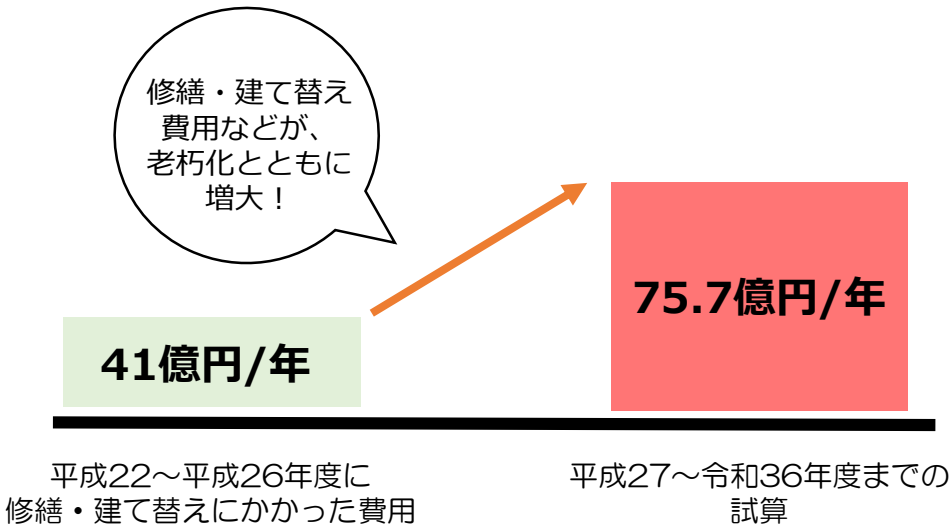
将来に負担を回さず、本当に必要な施設を残し、不要なものは廃止すること

横手市では、ＦＭ計画により、以下の数値目標及び基本方針を設定し、身の丈に合った公共施設量になるよう再配置を進めています。

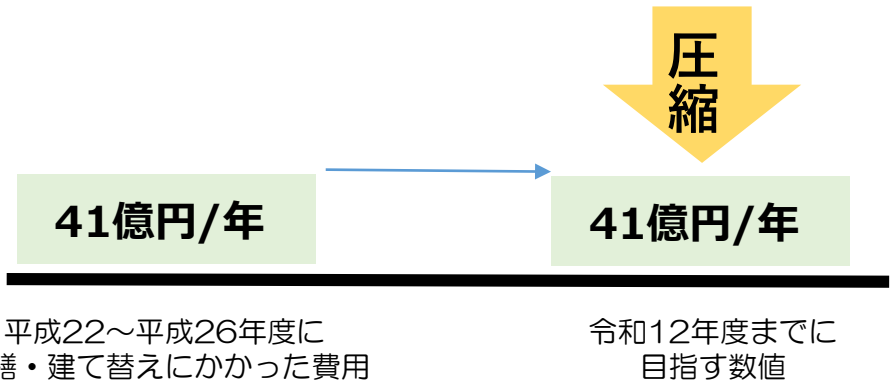
①数値目標

平成28年から、今後15年間に更新費用推計額を約40%圧縮する。

このままでは、１年あたり75.7億円を公共施設の修繕・建替費用に充てなければなりません。



この額を、１年あたり41億円（現在までの費用と同額程度）まで圧縮することができれば、適切に施設を管理し、運営していくことができます。



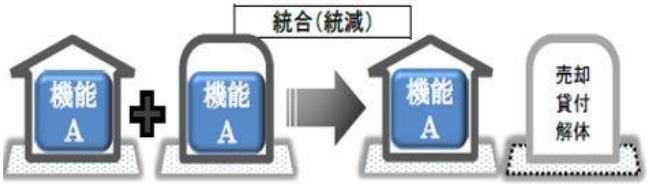
②基本方針
市が今後も管理運営していく施設、手放す施設等の方針を明記。毎年見直しをかけながら、計画を実行。

①の目標を達成するため、各公共施設を下記のように分類しました。それを基に再配置を行っています。

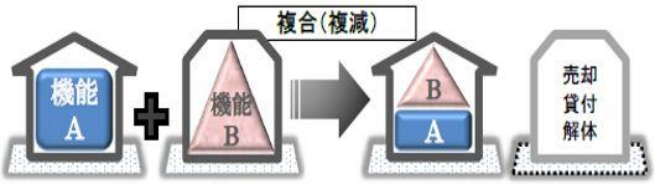
【長寿（長寿命化）】
大規模改修や建て替えにより建物を更新し、機能を存続させる。

【維持】
現在のまま機能を維持する。
大規模改修や建て替えは行わず、大きな支出を伴わない程度の改修にとどめる。

【統合（統減）】
同じ機能の複数施設を一つの施設に集約する。統合後の施設は長寿命化する。



【複合（複減）】
異なる機能の複数施設を一つの施設に集約する。複合後の施設は長寿命化する。



【譲渡】
地元団体や民間事業者へ、建物を有償または無償で譲渡する。機能は残る。

【廃止】
施設機能を廃止する。

事例1／ 消防署西分署は雄物川分署と大森・大雄分署の機能を集約し、新築しました。これは上記の分類だと『統合』にあたります。

事例2／ 平鹿地域局庁舎は、消防署平鹿分署と平鹿図書館の機能を集約し、新築しました。これは上記の分類だと『複合』にあたります。

計画の進行状況

現在、市民の皆さんのご理解とご協力により、公共施設の施設数・総延床面積を減らすことができています。しかし、一人当たりの公共施設面積については、人口減少の影響もあり、まだまだ全国平均に程遠い状況です。

今後はさらに計画的に施設管理を行っていくため、個別施設計画（長寿命化計画）を完成させるほか、「維持」としている施設にも更なる検討を加え、施設再配置の取り組みを加速させます。

	【計画策定時】	【平成30年度末時点】
《公共施設数》	909　施設	823　施設
《公共施設総延床面積》	713,000㎡	599,000㎡
《市民一人当たり公共施設面積》	7.4㎡（全国平均3.4㎡）	6.7㎡

普段、市民の皆さんも、家族の収入の範囲内で生活を営まれていると思います。貯金や借金をしながら必要なものは購入し、不要なものは捨て…。

ＦＭ計画も、基本的にこれと考えは一緒です。今後自治体はさらに厳しい財政運営を強いられる時代になります。少ない財源でも効率的な自治体運営ができるよう、市が持つべき施設とそうでない施設の区別をはっきりさせ、市民の皆さんが本当に必要としている公共施設を整備し、適切な維持管理・運営ができるように、メリハリの利いた施設再配置をしていくことが今後さらに重要になります。

ＦＭ計画の推進に対し、今後ともご理解とご協力をお願いします。

もったいないという理由で多くの施設をいつまでも残し、適切な維持管理ができない無駄なお金を使う街か？

横手市はどっち？

施設数は少なくても市民の要望に適切に応えられ、維持管理がきちんとされている公共施設がある街か？

【問合せ】横手市財務部財産経営課　〒013-8601　横手市条里1丁目1番64号
TEL 35-2168　Mail:kanzai@city.yokote.lg.jp

横手市財産経営推進計画　**検 索**